

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22592549

研究課題名（和文）保健師実習指導者の役割評価尺度と支援プログラムの開発に関する研究
 研究課題名（英文）Study of developing a role evaluation scale and support programs for public health nurses as clinical instructors.

研究代表者

小寺 さやか（KOTERA SAYAKA）

神戸大学・保健学研究科・講師

研究者番号：30509617

研究成果の概要（和文）：6 因子 34 項目から成る保健師実習指導者の役割自己評価尺度（SSRPC）を開発した。重回帰分析の結果、役割遂行には職業的アイデンティティ、実習指導に対するメリット感、研修会受講経験、同僚からの協力が影響力を持っていた。実習指導者が望むスキルアップの方法として、「実習指導に関する研修」が多く挙げられた。国内では保健師実習指導者の支援に関する報告は殆ど見られないため、効果的な支援方法を検討する必要性が改めて示唆された。

研究成果の概要（英文）：We developed the Self-evaluation Scale for Roles of a Public Health Nurse as a Clinical Instructor (SSRPC) to assess the performances required for public health nurses (PHNs) to fulfil the role of clinical instructor. According to multiple regression analysis, professional identity level, benefits from the clinical instructors' role experience, previous education on the role of a clinical instructor and co-workers' support were positively associated with SSRPC. A number of participants in this study required education for the role preparation. There is no empirical study of support program for PHNs as clinical instructors. Therefore, further research is required to develop more effective preparation programs for PHNs.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2010 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2011 年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2012 年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1,900,000 | 570,000 | 2,470,000 |

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域看護学

キーワード：公衆衛生看護学

1. 研究開始当初の背景

(1) 2009 年保健師助産師看護師法の改正により、保健師基礎教育の修業年限が「半年以上」から「1 年以上」に延長された。さらに看護系大学では、従来の統合カリキュラムだけでなく、選択制や大学院等において保健師教育

を行うことが可能になったことから、多くの大学で保健師教育の見直しが進められている。

(2) 保健師実習に関しては、実習施設の不足や業務量負担による実習指導者（以下、「指

導者」とする)の確保の問題,実習指導に関する研修受講割合の低さ等による指導者の質の問題,モチベーションが低い学生の急増と「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」の低さなどの教育側の問題が指摘されている(全国保健師長会 2008)。

以上より,保健師教育の質を保証する観点から,より効果的な臨地実習のあり方を検討していくことが重要である。

2. 研究の目的

(1) 保健師実習の指導者に焦点を当て,実習における指導者の役割を明確化し,その遂行状況を定量的に評価できる尺度を開発すること。

(2) (1)の結果を踏まえて,保健師実習の指導者を支援するプログラムを検討することである。

3. 研究の方法

(1) 尺度開発に向けた項目収集

① 学生が認識する効果的な指導者のかかわりを明らかにすることを目的に,看護系大学の学生(n=179)を対象に,自記式質問紙調査を実施した。

② 国内外の文献レビューにより,実習指導者の役割を収集した。

③ 厚生労働省が実施する指導者講習会を受講した指導者3名に対し,半構成的インタビュー調査を実施し,実際に行っている支援内容および役割に対する認識を明らかにした。

①~③を統合し,実習指導者の役割の概念を抽出した。

なお,本研究において「役割」とは,保健師実習期間中に,学生の学習意欲や学習成果に効果的な影響を及ぼす実習指導者の基本的な姿勢や行動と定義した。

(2) 尺度案の作成

① 尺度案の内容的妥当性を検討するため,看護系大学の地域看護教員及び経験豊富な指導者間で,各質問項目の妥当性,表現の明確性,現実適合性の検討を行い,尺度案を修正した。さらに,内容的妥当性及び表面妥当性を検討するため,現場の保健師約20名を対象にパイロット調査を実施した。回答の偏り(識別力),表現の明確性などにより再度修正を行い,最終的な尺度案(保健師実習指導者の役割自己評価尺度:SSRPC)を作成した。

② 尺度案の信頼性・妥当性を検証するため,全国の都道府県及び政令指定都市の保健所・保健センターに所属し,保健師実習の実習指導者としての経験を有する保健師を対象に質問紙調査を実施した。計509の施設に協力依頼をし,回答が得られた357か所

(70.1%)のうち研究協力の同意が得られた281か所(78.7%)の施設に対し,1467票の無記名自記式調査票を郵送した。回収は,返信用封筒により対象者が個別に投函する方法を用いた(調査期間:2011年7月~9月)。

③ 開発した尺度を用いて,指導者の役割遂行に影響する要因を検討した。

(3) 指導者支援プログラムの検討

(2)-②の調査を通して,指導者のスキルアップに関するニーズを把握した。また,国内外における指導者支援プログラムの動向を明らかにするため,国内外の先行研究の文献レビューを行った。

4. 研究成果

(1) 予備調査と尺度案の作成

実習指導者の役割の構成概念として,看護学生を対象とした質問紙調査より,【協力的・尊重的な態度】,【学習の促進とサポート】,【専門職としての役割モデル】,【学習環境の構築】の4つが創出された。さらに,実習指導者を対象としたインタビュー調査結果より,上記4つの構成概念に加え【質の高い実習指導の志向】が創出された。

これらの概念を基に,予備調査結果及び国内外の文献レビューから,60項目の質問項目を作成した。さらに,内容的妥当性の検討を行い,最終51項目の尺度原案を作成した。

(2) 尺度案の信頼性・妥当性の検証

研究参加の承諾を得た施設に所属する811人から回答を得(回収率55.3%),うち有効回答(尺度原案に未回答項目がある者を除外)は760人であった(有効回答率51.8%)。

対象者の保健師経験年数は平均21.2±9.7歳,実習指導者経験年数は平均11.7±8.9年,実習指導者研修の受講経験がある者は280人(36.8%)であった。

項目間分析,探索的因子分析(最尤法,プロマックス回転)等の結果,最終的に6因子34項目が抽出された。

尺度の信頼性は,Cronbachの α 係数により内的一貫性を検討し,尺度全体(0.96)と下位尺度(0.82~0.89)のすべてにおいて十分な数値が得られた。(表1)

また,基準関連妥当性を検討するため,保健師専門能力と保健師の職業的アイデンティティ(PISP)と本尺度との相関を確認したところ,尺度全体と保健師専門能力との相関係数は0.362,PISPとの相関係数は0.449と,いずれも尺度と有意な正の相関を認めた($p<0.001$)。また,保健師専門能力,PISPともに下位尺度の6因子の全てにおいても有意な正の相関を認めた($p<0.001$)。さらに,多くの先行研究で関連が認められている実習指

導者研修の受講に関しても、受講経験有群が無群より有意に尺度の平均値が高かった ($p < 0.001$)。

以上より、尺度の信頼性・妥当性が認められた。

表1 実習指導者役割自己評価尺度 (SSRPC)

| 因子 | Cronbach' |
|--------------------------|-----------|
| | α |
| 因子1: 専門職としての価値・信念・スキルの共有 | 0.89 |
| 因子2: 実習内容の調整 | 0.88 |
| 因子3: 学生の自信と学習意欲の促進 | 0.87 |
| 因子4: 学習環境の調整 | 0.87 |
| 因子5: 学生との関係づくり | 0.87 |
| 因子6: 実習指導の準備 | 0.82 |
| 全体 | 0.96 |

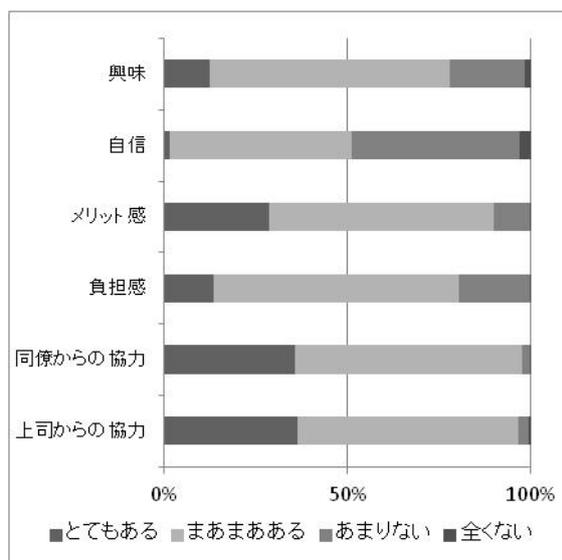
(3) 役割遂行に関連する要因の検討

分析対象は、調査票の返送があった 811 人 (回収率 55.3%) のうち、全ての項目に回答があった 722 人 (49.2%) とした。

SSRPC 合計の平均値は 114.99 (± 19.96)、最小値 59、最大値 166 であった。

変数の一つである実習指導に対する認識については、表2のとおりであった。

表2 実習指導に対する認識



SSRPC に有意に関連していた項目は、年齢 ($r=0.115$)、保健師経験年数 ($F=2.83$)、実習指導者経験年数 ($r=0.114$)、実習指導者研修の受講経験の有無 ($t=5.367$)、専門職務遂

行能力、PISP、実習指導に対する興味 ($r=0.349$)、自信 ($r=0.381$)、メリット感 ($r=0.268$)、上司や同僚からの協力であった ($r=0.128$, $r=0.135$)。これらの変数間で中等度以上の相関が見られた変数については、そのどちらか一方を選択、残った 5 項目を独立変数とし、SSRPC を従属変数とした重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った。

| 独立変数 | B | β | p |
|-----------------|-------|----------------------|---------|
| PISP | 0.398 | 0.386 | < 0.001 |
| 実習指導に対するメリット感 | 5.400 | 0.163 | < 0.001 |
| 実習指導者研修の受講経験(有) | 4.550 | 0.110 | 0.001 |
| 同僚からの協力 | 2.544 | 0.067 | 0.041 |
| R^2 | 0.244 | $F(17,547) = 57.941$ | |
| 調整済みの R^2 | 0.240 | $p < 0.001$ | |

実習指導者の役割遂行には、保健師としてのアイデンティティ、実習指導を担当することに対するメリット感、実習指導者研修の受講、同僚からの協力が影響していた。これらの結果から、指導者は保健師として学生に何を伝えたいのか予め明確にしておくことの大切さ、指導者になることへのメリット感を高められるような支援プログラムの必要性、指導者の選定が実習指導の質を担保する上で重要であること等が示唆された。

(3) 指導者支援プログラムの検討

質問紙調査結果から、実習指導者が自身のスキルアップのために必要だと考える取り組みや支援として、主に以下の項目が多く挙げられた。

① 実習指導に関わる内容

- ・指導者研修の受講
- ・指導者同士が指導経験を共有する機会
- ・効果的な実習についての学習
- ・人を育てる基本の姿勢を学ぶ機会
- ・学習評価の方法

② 実習指導以外の内容

- ・地域診断
- ・コーチング
- ・専門知識の獲得のための継続した OJT

③ 教育機関と連携した取り組み

- ・大学で受けている保健師教育の概要
- ・実習指導者へのスーパーバイズ
- ・教育機関とのコミュニケーションの向上
- ・教育機関との合同研修

④ 職場内体制

- ・指導者研修が受けられる体制づくり
- ・実習指導に対する職場内協力体制の充実
- ・実習指導のためのマニュアル作成
- ・指導者業務の位置づけの明確化
- ・指導者選定基準の明確化

⑤ 自己研鑽

- ・コミュニケーション技術の向上
- ・プレゼンテーション能力の向上

- ・学会等への参加
- ・日々の業務を充実させる

(4) 指導者支援プログラムの国内外の動向

① 国内文献レビュー

医中誌 Web (2000～2012 年) から「実習指導者」「看護」「研修又は講習」をキーワードに文献検索(会議録を除く)を行ったところ、計 113 件の文献が抽出された。そのうち、保健師実習指導者に関する文献は 1 件のみであった。それ以外の殆どの文献が、臨床実習の実習指導者を対象とした研修会の評価に関するものであった。

② 海外文献レビュー

CINAL (1989～2012 年) から preceptor, preparation (又は education) をキーワードに文献検索を行い、支援プログラムに関して入手可能な 7 件 (うち保健師実習 3 件, 2004～2011 年の) を検討した。その殆どが成人学習を基盤にした自己学習や online を用いた学習を取り入れていたことが特徴的であった。これらの先進的事例を基に、日本の現状に合った支援方法を検討していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

① Sayaka Kotera, Nobuko Matsuda, Developing a Self-evaluation Scale for Roles of a Public Health Nurse as a Clinical Instructor in Japanese Context, Bulletin of Health Sciences Kobe, 査読有, Vol. 28, 2012, pp.1-13.
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81004827.pdf>

[学会発表] (計 5 件)

① Sayaka Kotera, The Professional Competencies of Clinical Instructors in Public Health Nursing in Japan, The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, June 30-July 1 2012, Kobe.

② 小寺さやか, 保健師実習指導者の役割遂行に関連する要因, 日本地域看護学会第 15 回学術集会(査読有), 2012 年 6 月 23 日～24 日, 東京

③ Sayaka Kotera, Perceptions of undergraduate students in public health nursing: Effective intervention of practice supervisors which influenced on students' learning motivation and the

outcomes, The 2nd JAPAN-KOREA Joint Conferences on Community Health Nursing, July 17-18 2011, Kobe.

④ Sayaka Kotera, Nursing students' perceptions of the attitudes of practice instructors in public health nursing education in Japan, ICCHNR Biennial Symposium Embracing Equity and Diversity in Community, May 4-6 2011, Edmonton, Canada.

⑤ 小寺さやか, 保健師実習における学習意欲や学習効果を促進する実習指導者の関わり, 日本地域看護学会第 13 回学術集会, 平成 22 年 7 月 10 日～11 日, 札幌市

[図書]
該当なし

[その他]
該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小寺 さやか (KOTERA SAYAKA)
神戸大学・保健学研究科・講師
研究者番号: 30509617

(2) 研究分担者

井上 清美 (INOUE KIYOMI)
神戸常盤大学・保健科学部・准教授
研究者番号: 20511934
中山 貴美子 (NAKAYAMA KIMIKO)
神戸大学・保健学研究科・准教授
研究者番号: 70324944
(H23-H24)

(3) 連携研究者

松田 宣子 (MATSUDA NOBUKO)
神戸大学・保健学研究科・教授
研究者番号: 10157323
田中 祐子 (TANAKA YUKO)
聖泉大学・看護学部・准教授
研究者番号: 10535800
堀口和子 (HORIGUCHI KAZUKO)
兵庫医療大学・看護学部・講師
研究者番号: 30379953